

第8回厚別区防犯ネットワーク会議 会議録

1 日時・会場

平成27年7月17日（金） 15:00～16:30
厚別区民センター2階和室C

2 出席者（敬称略）

白川 典洋（小学校長会厚別支部）
波多野 達郎（厚別区PTA連合会）
中山 勝喜（厚別区中学校長会）
田中 昭夫（公益社団法人札幌市子ども会育成連合会）
松山 瑞穂（厚別中央地区まちづくり会議）
藤島 敬久（厚別南まちづくり会議）
土田 義也（青葉地区まちづくり会議）
押田 純（厚別西地区まちづくり会議）
阿部 義正（厚別東地区まちづくり会議）
齊藤 孝幸（北海道コカ・コーラボトリング(株)）
大川 和則（北海道コカ・コーラボトリング(株)）
大原 治 厚別区市民部長
藏田 忠朗 厚別区市民部総務企画課長
嶋田 愛一 厚別区市民部総務企画課地域安全担当係長
柴田 肇 厚別区市民部総務企画課地域安全担当係

3 会議内容

【1】代表・副代表互選

事務局

以前より当会議の代表については、小学校校長会からご出席いただいた方をお願いしていた。事務局としては今年度も小学校校長会からご出席いただいている白川校長先生をお願いしたいと考えている。当ネットワークの規約では互選ということになっているため、改めてみなさんのご承認をいただきたいので、よろしければ拍手で承認願う。

一同

拍手

事務局

では、代表は小学校校長会の白川校長先生に願います。

続いては副代表の互選について。昨年までは副代表を選出していなかったが、規約上は副代表互選となっているため、今年度は選出したいと考えている。事務局としては厚別区PTA連合会からご出席いただいている波多野副会長に願いたいと考えているが、よろしければみなさん拍手でご承認いただきたい。

一同

拍手

事務局

では、副代表については厚別区PTA連合会の波多野副会長に決定する。

【2】厚別区の犯罪発生状況と厚別警察署の取り組みについて

事務局

本日、厚別警察署の原田係長が欠席となったため、替わりにお手元の「犯罪統計レポート」の資料に基づき事務局からご説明する。

資料「犯罪統計レポート」のとおり

【3】各構成団体からの報告と意見交換

事務局

各団体の防犯に対する取り組みや課題についてご発言願いたい。

- 日頃子ども達への指導の中で防犯・安全ということに関しては、基本的には自分の身は自分で守るということを指導している。先日も警察署に来てもらい防犯教室を低学年と高学年に分けて指導してもらった。これは毎年行っている。そういった成果があったか、子ども達の防犯意識は年々高まっているように思える。

今年5月に校区内で露出があり、そこにたまたま通りかかった本校高学年の児童がすぐ近隣のコンビニに行って警察に通報した。本校からも町内会の会長に連絡し、町内会からそれぞれの自治会へ連絡した。その自治会の中でたまたま元警察官の会長がいたため、すぐさまプリントを作成して地域に配布し注意を促したことがあった。子どもの安全を守るには地域の連携が欠かすことができないと感じた。

- 防犯について問題意識を持ったのは、青色パトロール隊で子ども達に声掛け活動を行ってから。その声掛けの中で、下校時刻だから帰りなさいと児童に促すと、「自分の学校はまだ下校時刻ではない」という返事が返ってきた。厚別区PTA連合会でも去年からその事案を問題提起し、町連でも提起した。小学校長会でも提起されたかと思うが、指標となる下校時刻が守られていないケースが多く、そもそも学校ごとに基準が違う。同じ町内会でも下校時刻が違う学校が存在している事例もあり、そこを統一してもらいたい。似たような事例として、中学校区の青少年健全育成推進委員会の中で、少年育成指導員曰く、ゲームセンターに一人で入っていい校則の中学校と保護者同伴でなければならない校則の中学校がある。これは何故今まで問題提起されなかったかわからないが、やはり地域で見守りと言っている一方で、見守る側が声掛けをしたくともどっちの学校なのだろうと委縮するような形である。こういう形はなるべく避けていきたいと厚別区PTA連合会の役員会でも話をしている

し、一夕にできることではないが、見守りの基準を作っていきたい。やはり親がいいと言ったから遊んでいる子もいるが、例えば下校時刻が5時30分で親は6時まで遊んでいいと言っている場合に「下校時刻は5時30分だよ」と声掛けできるのと、こっちは5時30分こっちは5時、あなたはどっち？と声掛けするのとでは活動が全く違うので、私は今後も声掛けの基準若しくは地域を見守る目の基準を共有できる方向性を持っていきたいし、こういう形にすることによって、声掛けの参加し易さを作っていけたらと思う。

- 中学校では防犯を考えた時に思い浮かぶのは、子ども達の安全安心の確保という側面と、非行防止のイメージが大きくなると思う。両方を成り立たせようと情報交換を盛んにするため、札幌市には教護協会という名前の中学校の生活の先生が集まる会議がある。そこには警察や様々な関係機関も来てもらって、区ごとに会議を持っており、例えば厚別区であれば中学校と高校の生活の先生が来て、江別市の野幌高校や北広島市の北広島西高校などこの地域に関係の深い高校がオブザーバー参加してもらい、各高校のルールを確認したりお互いに摺合せをしたり、ここの中学校にはこういう生徒がいてこんなことをやっているということを打ち合わせしている。今は厚別区内には名前を挙げて警戒するグループはほとんど無く、逆に不登校のような休みがちの子ども達や、親の目が届かないため補導を受けるようなことが多い家庭についての話し合いや、交通事故被害の状況や、高校別に自転車の乗り方のルールの違いなどを熱心に話をしている。

今話題となった下校時間の違いの他にも、中学校の場合はカラオケボックスには誰と入っていいか、ゲームコーナーはいいけどゲームセンターはダメなど、細かい問題があった。そういう問題について教護協会が指針を作り各中学校に伝える。学校としてはそれよりきつくするのは良いが、緩くするのはやめてほしいという考えである。各中学校でもそういった違いについて摺合せを行っているが、全ての中学校が確実に事項のルールを確認して手直しを行っているかということ、まだ出来ていないかもしれないというのが話題に至った原因ではないかと自分は想定している。いろいろな場面で中学生は必ずしも地域で歓迎される存在にならない町もあると思うが、厚別区においては町内のみなさんも含め関係機関のみなさんからのご協力も厚くいただき、中学校としては学校生活を送らせることができていると思っているので、感謝申し上げると同時に、中学校でやっていることをなるべくこういう機会にお話しして知っていただくことが大事と思う。なんでもお話しするので話題にしていだければと思う。

- 子ども会として具体的な取り組みはしていないが、最近覚えた言葉で「イツメン」という言葉があり“いつも行動を共にするメンバー”ということで、自分たちの興味あることで集まるメンバーなどをイツメンというようである。結局それがどういうことになっていくかということ、最近中学生や高校生の事件で起きている「そのグループから出られない」とか「そのグループから出たらどうする」など、いじめは比較的そういうような傾向の中から出てきていると思う。私たち子ども会活動そのものがイツメンを防止することであり、幅広い年齢層と幅広いエリアの人たちとの

関わりを持っていくことが大きな要素であると思うので、子ども会育成者の幅広い年代の人が関わって子ども達にいろいろなことを教えていく。私たちの活動そのものがイツメンの対策であると考えている。

今、子ども会としての一番の悩みは、子ども会の数が減っているということ。子ども会の構成としては町内会が基であり、町内会の方々も後継者問題があり、年齢もだんだん高くなっている。そうすると子どもよりも自分の方が大変になっている。なんとか子どもを見守る仕組みを作っていただくことが大事なのかと最近特に感じている。

- 厚別区が取り組んでいる事業の一つとして、防犯対策の推進事業である「子ども地域安全マップ」についてご報告する。平成 19 年度から当事業の支援を行っており、それ以前は各小学校で通学路などの危険個所をPTAや大人が中心となってマップを作って子ども達に配布して注意喚起していた。そういった中で子ども達の防犯能力の向上を図ることを目的に厚別区で試行的に実施し、それ以降継続的に取り組んでいただいているのは共栄小学校のみであり、3年生の総合学習として取り組んでいただいている。子ども達が自分で歩いて、犯罪する側から見ても犯罪を起こしやすい場所で危険な場所でもある「入りやすく見えにくい場所」を確認し、学校に戻ってからみんなでマップ作成し発表し合っって情報を共有する。それと併せて大人の目線では気付かなかった危険な場所も子ども達から教えてもらい、地域の大人も知ることにもなるので、地域全体の防犯力が向上することになると思う。

厚別区としては職員派遣や物品の貸し出しなどいろいろな形で支援をしている。今のところ当事業を実施しているのは共栄小学校のみなので、是非他の小学校でも実施していただければと思う。

- 弊社は「子どもの安全を見守る運動」をしている。その根源は全社大会で北星余市高校の先生だった方に講師として講演いただいたことがあり、その時に講師から、弊社に車両がたくさんあることから子どもの安全を守るためにそれを有効活用できないかと提案された。それから子どもの安全を見守る運動のデザインを北海道に寄贈し、弊社には車両がたくさんあるので、子どもが犯罪にあったら助けるという取り組みをし、今に至っている。

その後に道警との取り組みの中で、弊社自販機は道内に4~5万台くらいあり、その中で情報が流れる自販機が1,300台程度あるので、テロップを使い警察が犯罪情報を流したり、市や区が情報を流したりと、自販機とは別な意味での形でお手伝いしているというのが現状である。また、自販機にポスターを貼る欄もあるので、それを使用して厚別区の地区で防犯や防災用として使用することもできると思う。他の市町村の事例だと、釧路市では弊社社屋の近くに小学校があるので、朝通学路に立って見守りも行っている。厚別区でご協力できることがあれば、可能な範囲でご相談させていただく。

- 自治連としては特別に計画を立てて行っているわけではないが、事件が起きた場合には各単位町内会の会長に連絡して対応してもらおうということで防犯に関与して

いる。青葉にも子ども SOS の会員がたくさんあり、ステッカーを各家庭で付けているため、ステッカーを付けている家では何かあったら対応してもらうという活動をしている。

- 町連として子ども達と関わりのあることとしては、12号線の花いっぱい運動、防災研修としてDIG、消火栓の除雪ボランティアを行っている。
- 森林公園町内会は厚別北小学校を担当しており、町内会で防犯防災部だけでなく交通部と青少年部の関係者14～15人に出てもらって青パトを出して全体的な対応をしている。また、スクールガードの会議にPTAの方も出て集団下校や様々な訓練についてお互いに連絡し合っている。それから交通事故や犯罪に遭わないためにきちんと登下校コースを指導している。信号機一つにしても具体的なコースをスクールガードと一緒に歩いて指導している。スクールガードは防犯のチョッキを着ているので、だんだん小学校関係者から顔を覚えられ、子ども達も声をかけてくれる。
防犯に防災も併せて抱き込んでいく考え方も大切だと思う。消防署に来てもらって学校の敷地内で防火訓練も毎年行っているのも、子ども達も参加すると能力も向上すると思う。あまり防犯一本という考え方ではなく、交通安全、青少年育成活動など全体的に関わっていく方法がいいと思う。
- 上野幌中央町内会は1から12の町内会で月1回連絡協議会を行っており、それぞれ小学校登下校時の見守りを行っている。去年殺人事件が起こった上野幌中央第1町内会ではパトロールを強化した。その後特に問題は無いようである。定期的に学校とも打ち合わせや会議を行っており、問題点や改善点があればお互い協力している。
- 3年くらい前から防災福祉支え合いマップ作りを行っており、その中でせっかく作るのであれば子ども達にとって安全な場所や危険な場所を入れていこうという話になった。町内会には全てのものが下りてくるので、それを関連付けてやらないとどうしようもない。路上駐車パトロールについても、子どもの夏休みのときにいろいろな町内会のイベントがあるので、その時に車の駐車状況の点検を依頼するなど、必ず2つ3つ関連しながら活動することにしている。去年9月11日の大雨の時に私たちの地域の避難所である小学校について、たまたま臨時休校となったので避難しても問題なかったが、子ども達が当校した後に避難することになった場合はどう対処しなければならないかを考えなければならないのではないかとの意見も出た。中央地区でサロンができて、今までサロンはお年寄りが集うものであったが、最近では子ども達も参加し、乳幼児も母親が連れて来たり、春休みには子ども達が友達を誘ってお年寄りと一緒に弁当を食べたり、夏休みには焼肉を呼び水にして子ども誘ったりと、常に一つのことに限るとダメなのでいろいろなことに関連するような形で活動しようとしている。良い例としては、町内会活動やボランティアというのは意識して行うことが多いと思うが、ごみ出しや犬の散歩など生活に密接した自然体の行動の中で子どもの見守りを行おうと5～6年前から実施し、少しずつ定着してきた。昨年も不審者が出た時に学校の先生が見回りをしており、それを聞いて地域

の人がごみ出しの時に見回りをした。このように意識しないで出来る活動を町内会で広げていきたい。

- 下校時間について、昨年の校長会で調査して取りまとめたという話を聞いていた。夏場だと最大で30分くらいの差であったが、冬場は時間差が大きい。上野幌小学校では夏場は5時30分で冬場は4時30分という設定だが、冬至の日は3時30分か4時前には真っ暗になるので本当にその設定時間で良いのかという話になった。この話はまだ学校内だけであって、区内の統一という話にまでなっていない。
 - 学年ごとに下校時間に差は無く、統一されているのか？
 - 学年ごとに差が発生することはない。
 - やはり下校時間は区内統一した方がいいのか。
 - 学校ごとや地域ごとに事情が違うという話は聞いているが、統一した方がいいのかなという話はされていたと思う。
 - そもそも何故冬と夏で下校時刻が分かれているかという問いに対し、学校の先生から1・2学期と3学期とで分けるのが一番分けやすいと回答されたが、現実的には1年間に暗い時期と明るい時期が2段階に分けることは難しく、その時期に合った適切な明るさで3段階くらいに分けた方がいい。本当は市内統一すると下校時刻にチャイムを鳴らすこともできて地域住民に今何時かということも伝わる。こういう議論がされた結果、やはり難しいという話になればわかるが、そもそも明るさと暗さの基準の前に、学期という基準が議論の敷居を高くしている理由なのかと思う。やはり学校が管理を重視するのはわかるが、我々保護者や見守る側からすると実態にあった見守りを議論したいというのが本音である。厚別区PTA連合会で一昨年くらいから問題提起しているのが、我々が厚別区PTA連合会や校長会に訴えていくのではなくて、町内会を挙げて防犯の見地からこうしようよと話がでて、地域ぐるみで合意を得るのが本来は筋だが、なかなかこのことに興味を持ってくれる人すらいなく、学校側からトップダウンし、学校も校長会からトップダウン、校長会も市教育委員会からトップダウンという構造にしなければなかなか実現しないという経緯があり、今は話が進んでいない。学校の先生も見守っているが、最終的に見守るのは地域であるから、地域側から問題提起してほしいと思うことがよくある。
- 道路を挟んで向こう側の校区から遊びに来ている子どもがいて、その帰らない子に誘発されて帰らない子もいる。私はそういう時に怖いおじさんに徹して蜘蛛の子散らすように帰すこともある。
- 基本的に学校の約束として目安を設けるが、家庭教育の範疇による場合もある。家庭によって事情があれば多少そういう約束からずれているのも事実なのかと思う。
 - 逆にルールが形骸化しているのであれば無くしてもいいと思うが、ルールがあるのにバラバラだということが問題だと考える。

【4】議事

事務局

厚別区防犯ネットワーク規約の改正について、構成団体の名称変更や字句修正を行

いたいで、【資料2】厚別区防犯ネットワーク規約(改正案)のとおり改正してよろしければ拍手でご承認いただきたい。

一同

拍手

事務局

次に、不審者情報の町内会への連絡体制については昨年度も当会議で様々なご意見をいただいていた。前回の会議終了後に厚別警察署と話をしたところ、基本的には学校から直接町内会の青パトなどの防犯活動実践者へ連絡してもらうことが一番漏れが無く、学校と町内会とのネットワークの構築にもなるのでいいのではないかとのことであった。

また、まちセン経由の連絡であれば所長不在時などは連絡が滞るという意見もあったが、町連単位でまちセンとの連絡体制を構築しているところもあり、各地区において取り組みの実態が異なっているので、全て統一することが難しいと考えるので、この件についてご議論いただきたい。

- 指針としてはどうすべきか、どこを経由して伝えるかなど全体としてのルールは決めておくべきと思う。
- 指示待ちしてはどうかと思う。自動的に対応していかないといけない。不審者情報も学校から第1報は青パトや町内会、第2報はまちセンがいいと思う。

事務局

続いて平成27年度厚別区防犯講演会について、【資料3】平成26年度厚別区防犯研修会結果をご覧ください。

この結果を踏まえ、今年度はどのようにするかご議論いただきたい。

- 前回は講演だけではなくワークショップを行ったのがよかった。
- ワークショップは効果的だが、講演が長引いてワークショップの時間が短かったので、それは避けてほしい。地域交流のせっかくの場なのでもう少し長めであればよい。それと、防犯と関係無いと思われる企業の人に来ていたが、防犯に関する実務的な話があまりできなかったのも、そこをどうにか改善できればと思う。
- 研修会に参加いただいていた企業は札幌市の地域安全サポーターズに登録している企業であるので、普段地域の見守り等も行っている。たまたま研修会に参加した人が防犯の話をしなかっただけかもしれない。
- テーマなども今すぐ決められないと思うので、今後事務局と調整して決定していきたいと思う。

事務局

厚別区防犯ネットワークとして取り組む新規事業について、昨年この話をさせていただいたが、これまで特に新規事業のご提案はなかった。今日のご議論を踏まえて、新たな取り組みがあればご提案いただきたい。

- こちらについても今すぐ決められないと思うので、何かあれば今後事務局にご連絡いただきたい。

事務局

平成27年度の事業計画については、【資料5】平成27年度事業計画のとおりである。

- こちらについて何もご意見がなければ、これにて議事は全て終了する。

(文責：厚別区総務企画課地域安全担当係)